

平成17年10月1日、新・遠野市誕生。



平成17年10月1日、市役所東館(東館町)で遠野市開庁式が開かれた。佐々木廣市長職務執行者(旧宮守村長、左から5人目)と本田敏秋旧遠野市長(左から7人目)らと、10月1日生まれの児童がテープカットを行い、新・遠野市の船出を祝った

平成の大合併

平成11年から全国で始まった「平成の大合併」。人口減少や少子高齢化などの地域課題、地方分権、多様化・高度化する住民ニーズに対応するため、基礎自治体と言われる市町村の合併を進め、より安定的で効率的な行財政基盤の構築を目的に行われました。合併以前から、遠野市と宮守村はさまざまな形で住民、行政、経済などの交流が活発に行われていたことから、平成16年5月に任意合併協議会を設置。1年5ヶ月にわたる協議を経て、平成17年10月1日、人口約3万3千人、面積約825平方キロメートルの新・遠野市が誕生しました。

あれから10年

新・遠野市が誕生して、今まで10年。これまで私たちには、遠野と宮守の個性を融合させながら、心を一つに、「永遠の日本のふるさと」との創造を目指してきました。「永遠の日本のふるさと」とは、自然と共生しながら、

課題を乗り越えるために

市民が一丸となって取り組む遠野ならではのまちづくりは、高く評価され、全国的にも注目を浴びてきた一方で、人口減少、少子高齢化はさらに進展。地域の担い手不足が深刻化し、地域は衰退の危機を迎えていました。

地域の課題を乗り越え、「永遠の日本のふるさと」を次世代につないでいくために、私たちちは、この10年で創り上げたまちづくりのスタイルを、さらに発展させていく必要があります。



新・遠野市誕生10周年記念特集

永遠の日本のふるさと

平成17年10月1日に遠野市と宮守村が合併し、新・遠野市が誕生してから今年で10年。

私たちはこれまで、「永遠の日本のふるさと遠野」を将来像に、市と市民が力を合せる「遠野スタイル」でまちづくりを進めてきました。10年の軌跡を振り返り、これから遠野を考えます。

遠野スタイル、10年。

市と市民が手を取り合い、市民一丸となつて取り組むまちづくりは、

10年の軌跡を振り返ります。



地域資源をいかす

前半の5年で、最も大きな出来事と言えば、『遠野物語』発刊百周年記念事業が挙げられます。百周年を祝うさまざまな取り組みでは、市民が地域の歴史や文化の素晴らしさを再認識し、郷土に誇りを持つ機会となりました。遠野遺産認定制度や遠野の語り部千人プロジェクトなども始まり、市民主体となつて、郷土の宝を掘り起し、大切に保存・継承する活動が今も続いている。また、百周年記念事業がきっかけで、県内外の自治体との交流も盛んになりました。

震災で心を一つに

後半の5年で最も印象的な出来事は、平成23年3月11日

H27年		H26年			H25年			H24年			H23年		
10	4	2	9	8	4	4	3	11	7	4	7	4	3
市制施行10周年			遠野物語ファンタジーアイコン記念公演 <small>(写真⑯)</small>	兵庫県福崎町と友好都市を締結	SLS銀河運行開始。市民総出でお出迎え <small>(写真⑭)</small>	市防災基本条例制定	とおの物語の館(旧遠野昔話村) リニューアルオープン	東北横断自動車道釜石秋田線の宮守一東和間が開通 <small>(写真⑪)</small>	あすもあ遠野、旅の蔵遠野、遠野元気わらすっこセンター、夢産直かみごう、福祉サービス事業所結和がオープン	仮設住宅希望の郷「絆」入居開始 <small>(写真⑩)</small>	本庁舎全壊により、とびあに市役所機能を移転	東日本大震災発生。官民一丸で後方支援活動を展開 <small>(写真⑧)</small> …稻荷下屋内運動場で大量の物資を仕分ける地域住民ら <small>⑨…市民ボランティアが連携して焼き出しを行った)</small>	
			6年ぶりに、遠野まつりが遠野郷八幡宮と合同開催	富士ゼロックス株と連携し、旧土淵中学校跡地に「遠野みらい創り力レゾン」を創設 <small>(写真⑮)</small>	市総合食育センター「ぱすぽる」供用開始		天皇皇后両陛下がこゝ来遠し、被災者などを慰問 <small>(写真⑬)</small>	市立中学校再編。8校が閉校し、遠野、遠野東、遠野西の3校が開校。 <small>(写真⑫)</small>					

H22年			H21年		H20年		H19年			H18年			H17年					
10	6	4	3	3	1	9	3	12	4	3	3	9	6	4	1	12	10	10
愛知県大府市と友好都市を締結	市立博物館リニューアルオープン 『遠野物語』発刊20周年記念式典開催 (写真⑦:表現活動「遠野の里の物語」を披露する遠野小の児童)	平成28年の岩手国体少年サッカー会場に内定	遠野高校情報ビジネス校閉校	市立図書館リニューアルオープン	J-FACこのじるのプロジェクト—遠野わらすつ—「夢の教室」開始(写真⑥)	全国初の公設助産院「ねつと・ゆりかご」開所(写真④) 語りを披露する正部家ミヤさん	仙人峠道路が開通(写真③)	大出小中学校が閉校	市民憲章・市民歌を制定	新市の総合計画基本構想を策定 市章・市旗、市の花・鳥・木などを制定	宮崎県西米良村・熊本県菊池市と友好都市を締結	遠野高校サッカー部が全国高校サッカー選手権大会で3位入賞(その後、市民栄誉賞受賞)(写真②)	新遠野市誕生記念式典開催(写真①)	初代市長に本田敏秋氏が無投票当選 新・遠野市誕生	遠野市と宮守村の合併により、遠野市誕生	12	10	10
愛知県大府市と友好都市を締結	市立博物館リニューアルオープン 『遠野物語』発刊20周年記念式典開催 (写真⑦:表現活動「遠野の里の物語」を披露する遠野小の児童)	平成28年の岩手国体少年サッカー会場に内定	遠野高校情報ビジネス校閉校	市立図書館リニューアルオープン	J-FACこのじるのプロジェクト—遠野わらすつ—「夢の教室」開始(写真⑥)	全国初の公設助産院「ねつと・ゆりかご」開所(写真④) 語りを披露する正部家ミヤさん	仙人峠道路が開通(写真③)	大出小中学校が閉校	市民憲章・市民歌を制定	新市の総合計画基本構想を策定 市章・市旗、市の花・鳥・木などを制定	宮崎県西米良村・熊本県菊池市と友好都市を締結	遠野高校サッカー部が全国高校サッカー選手権大会で3位入賞(その後、市民栄誉賞受賞)(写真②)	新遠野市誕生記念式典開催(写真①)	初代市長に本田敏秋氏が無投票当選 新・遠野市誕生	遠野市と宮守村の合併により、遠野市誕生	12	10	10



遠野まつり

日本のふるさと



10_宮守町の下郷さんさ踊りは、新・遠野市誕生10周年の今年、馬場巡りに初めて参加しました 11・12_子どもからお年寄りまで参加し、地域の宝である郷土芸能が、馬場いっぱいに披露されました 13_遠野の馬事文化を象徴するやぶさめ。的中すると、歓声が轟きました 14_神楽殿では、市内の神楽団体が厳かに舞を奉納 15_福を招くと言われる「カンナガラ」を拾う姿があちらこちらで見られました

1_猿田彦を先頭にパレードを開始 2・3・4_郷土芸能団体が練り歩き、会場は盛り上がりました 5_全しし踊り団体による圧巻の大群舞 6_かわいらしい子どもの姿は観客を笑顔に 7_福幸餅まき 8・9_夜遅くまで郷土芸能共演会が繰り広げられ、会場は熱気に包まれました

「日本のふるさと遠野まつり」(同実行委員会主催)は9月19・20の両日、遠野駅前通り周辺と遠野郷八幡宮境内で行われました。地域の絆を深め、多くの人を感動させる祭りは、「永遠の日本のふるさと」そのものです。

地域の宝を堂々と

昨年、市民の熱い思いにより、6年ぶりに遠野郷八幡宮との合同開催にこぎつけた「日本のふるさと遠野まつり」。初日は市街地を中心に行なわれ、仙人太鼓の力強い演舞で開幕。パレードやしき踊りの大群舞、夜神楽などが繰り広げられました。2日目は、遠野郷八幡宮の境内に会場を移し、やぶさめや馬場巡りを開催。2日間で、郷土芸能団体など63団体、子どもからお年寄りまで延べ1万人が

参加し、郷土芸能という地域の宝が大切に継承されていることを示しました。また、遠野が一年で最も光り輝く瞬間を一目見ようと、市内外から2万2千人の観光客らが訪れ、市内はにぎわいました。

日本のふるさとを体現

運営ボランティアや各団体の参加に陰ながら協力する人、観客として参加者の晴れ姿を見届ける人を含めると、この祭りには、市民のほとんどが参加しています。市民が心を一つに取り組み、郷土愛の醸成や郷土芸能の保存・継承につなげている祭りは、唯一無二の存在です。老若男女が楽しみながら参加し、交流を深め、地域の絆を深める遠野まつり。この祭りは、私たちがまちづくりの理想像に掲げる「永遠の日本のふるさと遠野」を体現しています。

遠野まつりには、人を感じさせる力があります。それは、昔から変わらない、日本のふるさとの原風景が残っているからです。全国に発信すべき、遠野の魅力です。



祭りは、
まちづくり。



「市民協働」が合言葉。

人口減少や少子高齢化などの課題を乗り越え、明るい未来を創るために、市と市民が共に考え、共に取り組む「市民協働」がキーワードになります。本田市長に、これからの遠野のまちづくりについて聞きました。

市民協働の10年

平成17年10月、遠野と宮守の二つの個性が融合し、躍動する新しい遠野郷の創造を目指し、新・遠野市は誕生しました。この10年、市民の皆さんと共に知恵を出し合い、汗を流し、各種施策に取り組んでまいりました。市民の皆さまのご理解とご協力に、あらためて感謝申し上げます。

この10年は、「市民協働」の10年でした。『遠野物語』発刊百周年記念事業、沿岸被災地後方支援活動、「市防災基本条例」に基づく自助・共助・公助を基本とした安心・安全なまちづくりは、いずれも市民協働によるものです。さらに、来年の希望郷いわて国体で、本市は少年男子サッカー競技の開催地となることから、官民一体の花いっぱい運動も展開されています。

これらの、市民協働によるまちづくりが「遠野スタイル」として、この提言をもとに、市民

これから遠野

です。今後も、このスタイルにこだわりを持ち、遠野ならではのまちづくりを開拓していくことが未来を切り開くと考えています。

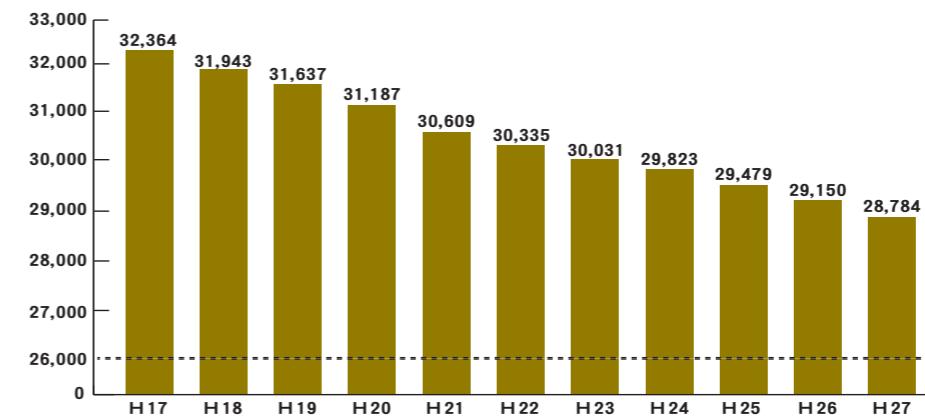
人口減少、少子高齢化の問題は本市にとつても例外ではありません。この10年で、人口が約3千6百人も減少しました(右ページ参照)。この問題に立ち向かうため、「子育てるなら遠野」をスローガンに、結婚から妊娠、出産、教育に至るまで、切れ目ない子育て支援施策を充実させていく所存です。また、人口が減少する中でも、キラリと輝く地域をつくることも必要です。本年7月、「第二次遠野市進化まちづくり検証委員会」から、持続可能な地域コミュニティーのあり方にについて最終提言をいただきました。この提言をもとに、市民

みんなの手で

の皆さまと一緒に行動に移し、地域の未来を変えていきたいと思っております。東北横断自動車道釜石秋田線宮守―遠野間が年内に開通する予定です。本市を取り巻く交通環境は、大きく変わろうとしています。これをチャンスととらえ、観光・交流・移住の促進、産業振興などにも力を注ぎます。

中心市街地活性化も大きな力があります。現在整備中の本庁舎を中心とし、まちなかの賑わい創出を目指します。また、宮守町の^{エムエムワン}（道の駅宮守）の利活用も進め、商業振興や居住人口の増加につなげます。

2005▶2015 遠野市の人口の推移



10年間で3,580人減少
(約11%減少)

※住民基本台帳人口
(各年9月末現在。H27のみ8月末)

遠野市長
本田 敏秋



です。今後も、このスタイルにこだわりを持ち、遠野ならではのまちづくりを開拓していくことが未来を切り開くと考えています。東北横断自動車道釜石秋田線宮守―遠野間が年内に開通する予定です。本市を取り巻く交通環境は、大きく変わろうとしています。これをチャンスととらえ、観光・交流・移住の促進、産業振興などにも力を注ぎます。

遠野の豊かな地域資源をいかしながら、市民協働でまちづくりに取り組みましょう。そして、「永遠の日本のふるさと遠野」をみんなで創り上げましょう。

の皆さまと一緒に行動に移し、地域の未来を変えていきたいと思っております。あらゆる課題を乗り越え、みんなが笑顔で暮らせる遠野を創るために、市民の皆さまの協力が必要不可欠です。

ながら、市民協働でまちづくりに取り組みましょう。そして、「永遠の日本のふるさと遠野」をみんなで創り上げましょう。



遠野市10歳。 私たちも、10歳。

10年後も、20年後も、いつまでも、

子どもの笑顔が輝くまちでいたいー。
永遠の日本のふるさとで、

あなたと一緒に、

遠野の未来をつくります。



青笹小



遠野北小1組



遠野北小2組



附馬牛小



小友小



鰐沢小



達曾部小



宮守小



遠野小2組



遠野小1組

子どもたちの笑顔は
まちづくりのバロメーター

子どもたちの笑顔は
まちづくりのバロメーター

新・遠野市が誕生した年に産声

をあげた子どもたちも、今年で10

歳になります。平成17年度に生ま

れた、市内の小学4年生は198

人。この子どもたちのキラキラと

輝く笑顔を見てください。子ども

たちの笑顔は、遠野の宝です。こ

の子どもたちは、これからも、遠

野と一緒に成長していくことで

しょう。

境でなければなりません。子ども
からお年寄りまで、みんなが笑顔
で暮らせるまちづくりが、私たち
の目標です。

10年後も、20年後も、いつまで
も、子どもの笑顔が輝くまちでい
たいー。そのため、「今」を生き
る私たちは、協力して課題を乗り
越え、未来を見据えたまちづくり
に取り組む必要があります。

まちづくりの主役は、遠野に暮

らす、私たち3万人の市民です。

この10年間で、市民協働で構築し
てきた「遠野スタイル」を、さらに

磨いていきましょう。「永遠の日

本のふるさと遠野」を、未来につ
なぐためにー。

写真／新・遠野市が誕生した平成17年度に生まれた、市内の小学4年生198人。